

## 第32回泌尿器科漢方研究会学術集会

代表幹事:堀江重郎(順天堂大学大学院医学研究科泌尿器外科学)

日時:2015年6月20日(土) 13:00~18:05

会場:コクヨホール(東京都)

### 頻尿症、過活動膀胱に対する 漢方薬の効果の検討

国家公務員共済組合連合会東京共済病院 泌尿器科

○有賀 誠司、白木 良治

【背景】半夏瀉心湯は半夏、黄芩、乾姜、甘草、大棗、人参、黄連を構成成分とし、悪心嘔吐、食欲不振、消化不良、胸焼け、二日酔い、神経性胃炎、口内炎、軟便、下痢、神経症等に効果があるとされている。また、近年、抗癌剤投与に伴う下痢症に対する改善効果が注目されている。そのメカニズムとして腸管壁に対するコリン作動性神経由来の平滑筋収縮抑制作用（抗コリン作用）と、部分的なNO作動性神経からのNO遊離促進による平滑筋弛緩作用が証明されている（Kito Y, Teramoto N. Effect of Hangeshashin-to (TJ-14) and Keishi-ka-shakuyaku-to (TJ-60) on contractile activity of circular smooth muscle of the rat distal colon. Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol. 303: G1059-66. 2012）。

【目的、方法】今回我々は過活動膀胱、前立腺肥大症、間質性膀胱炎による切迫感、頻尿症状を有する患者に対しツムラ半夏瀉心湯（7.5g3×毎食前）を投与しその効果を検討した。検討症例数は9名（男3名、女6名）、平均年齢は83歳、過活動膀胱6例、前立腺肥大症2例、間質性膀胱炎1例であった。半夏瀉心湯を2週間以上投与し効果を検討した。抗コリン剤、 $\alpha 1$ ブロッカーをすでに投与されている症例で症状の改善が十分得られない症例に追加して投与した症例もあった。

【結果】9例中5例で頻尿症状の改善が認められた。このうちOABSSを前後で評価できた症例では投与前10点が投与後3点に減少した。また、ソリフェナシン5mg投与にて症状改善が認められなかった症例で7.5mgへ増量したところ口渇の症状が強くなったため、ソリフェナシン5mg+半夏瀉心湯を投与したところ口渇の副作用を認めずとも頻尿、切迫感の改善を認めた症例もあった。効果が認められなかった4例は過活動膀胱1例、過活動膀胱に多尿が合併した1例、間質性膀胱炎、高度前立腺肥大症（前立腺体積130ml）であった。副作用は1例で胃部不快感が認められたが残尿量の増加、口渇、便秘等は認められなかった。

【結語】半夏瀉心湯が頻尿、尿意切迫に対し効果が期待できる可能性があるかもしれない。当日は検討症例を追加し詳細を報告するつもりである。